

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

(1) 【ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業におけるカリキュラム開発の推進】

[目標] 本校が定めたグローバル・リーダーに必要な「6つの資質・能力」の向上を目指して、活動の3つの柱「社会の多様性への理解の促進」「課題研究の充実」「高度な学びの推進」を重視し、生徒の学習意欲や進路意識を高め、未来の岡山と世界の Well-being の実現に貢献するグローバル・リーダーを育成する。

[計画] ○大学入試改革を見据えた WWL 課と教務課・進路指導課等との連携促進 ○大学・企業・連携校や海外の高校等と AL ネットワークを構築し高校生国際会議等の開催 ○「未来航路」及び「SOZAN 国際塾」における課題研究の推進 ○中高一貫課題研究メソッドの開発 ○海外姉妹校との共同課題研究 ○「GLOBAL STUDIES」における中高連携による教科指導を通じた資質・能力の向上と英語力の向上、「Global Can-do List」に基づく学習活動の深化 ○データサイエンス等を含んだ文理融合・教科横断的科目「SOZAN STEAM」の充実

- ① 「未来航路」では、どのグループも10件以上の新聞や雑誌、ウェブの記事の収集を行い、論文の形式で研究成果をまとめることができた。その成果を今年度からの取組であるパブリック・コメントに活かすことができた。
- ② 「SOZAN 国際塾」では、10月に開催したグローバル合宿に15名が参加した。今年度、大学や関係機関等が主催するプログラムに計12件、延べ73名が参加した。また、姉妹校(SHC)とオンライン交流を4回、岡山大学留学生とのオンライン交流を7回実施した。
- ③ 教育研究会は、6教科で実施し、校内外から延べ158名の参観があった。また、研究紀要「操山論叢」に各教科、授業改善、Chromebook の活用について成果を紹介した。
- ④ 「SOZAN STEAM」では、「データサイエンス基礎」「科学技術コミュニケーション」とも柱となる部分ができた。
- ⑤ 1年生の生徒が、9月中旬からチェコ共和国に長期留学をした。また、アジア高校生架け橋プロジェクトで、マレーシアから1名の留学生を受け入れた。
- ⑥ Chromebook をどのように指導に活かすかという観点から、様々な試みがなされた。(スライド、Jamboard, Forms などの積極活用)

(2) 【進路実現】

[目標] 高い志をもつ生徒を育成し、東京大学や京都大学をはじめとする難関大学や難関学部、SGU (トップ型)、及び地元岡山大学をはじめとする国公立大学への進路実現を目指す。

[計画] ○大学入試制度改革に対応する指導の推進 ○学年団と進路指導課の効果的な連携と進路指導体制の確立 ○校内研修や授業研究及び県外先進校視察などによる教員の指導力向上 ○生徒の主体的な学習への指導・支援

- ① 1年生では、生徒の進路意識向上のために、進路講演会や志望校別のグループ討議を行うことができた。2年生では、東京大学主催「金曜特別講座」や合同学習合宿へ積極的に参加させることができた。また、保護者に向けた進路講演会をオンデマンドで実施し、本校の進路指導

に対する理解を深めていただくことができた。3年生では、年度当初より「志望が学力を作る」という考えを学年内で共有し、第一志望校に対して前向きに向かっていく姿勢を培ってきた。結果として、達成基準を超える志望者数を維持することができた。

- ② 各教科で、Global Can-do List を作成し、新たな育成目標である6つの能力・資質とそれを達成するための具体的な方策の研究や、Chromebook を用いた授業について研究を行った。
- ③ 道徳教育全体計画など、新学習指導要領実施に向けた各種指導計画の作成には、ほぼ目途が立った。各教科・特別活動の評価の観点については、研究や情報の交換が進められている。

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

[目標] 生徒支援委員会を活性化し、特別な支援を要する生徒や心理的課題を有する生徒等に対する総合的な支援を行い、不登校や学校不適応を減少させるとともに、積極的な生徒指導を展開する。

[計画] ○個別の教育支援計画の整備 ○支援を要する生徒情報の共有と早期対応 ○各学年生徒支援係の活動の充実 ○自尊心や自己有用感を高める取組の充実 ○教職員を対象とした研修の充実及び保護者を対象とした啓発活動の実施 ○いじめなど生徒間の問題の未然防止・早期発見・早期対応、併設中学校及び外部機関との連携 ○校内美化等環境整備

- ① 必要な生徒に対して個別の健康相談を実施した。対応の際には、事例に応じて、学校精神科医、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと本人や保護者をつなげた。また対応後は、相談内容に対するケース会議を実施し、担任や学年など必要部署で共有し支援体制を整えた。
- ② 生徒支援委員会（中高合同生徒支援委員会を含む）をSSWにも参加してもらい、年10回以上、外部カウンセラーによる教育相談を年20回以上実施した。また、いじめ実態把握アンケートを、今年度は2回実施（例年1回）した。
- ③ ハンセン病問題を扱った人権教育LHRに合わせ、講演会の講師から紹介された書籍等を紹介した読書コーナーを図書館内に開設した。

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

[目標] 中学生とその保護者に対して積極的に情報発信し、効果的な生徒募集を行う。また、本校保護者、本校卒業生、地域に対しても積極的に情報発信し、連携を推進する。

[計画] ○中学校や志願者に関する情報の積極的収集 ○学校説明会やオープンスクール等の充実 ○ホームページの充実及びメールサービス・SNS等の効果的活用 ○経営目標・計画に基づく自己評価及び学校関係者評価の公開と活用

- ① オープンスクールは、新型コロナウイルス感染症のため、当初の計画より延期し、参加人数を午前・午後で計700名に制限した上で実施した。延期の影響もあり、参加人数は526名と予想より若干少なかったものの、アンケートによると99%の来校者が本校に対してよい印象を持ったことがわかった。
- ② ホームページやFacebookの更新は、1学期は少なかったものの、2学期は週2回のペースで更新することができ、部活動に関する内容の更新も行った。

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進、教職員の健康の維持】

[目標] 学校の課題や将来ビジョンをすべての教職員が共有し、ベクトルの合った業務を遂行するとともに、働きがいのある職場を創る。また、学校組織の再編や業務の効率化を図り、教職員の心身の健康を維持する。

[計画] ○学校課題や経営目標とその進捗状況等の共有 ○危機管理体制の整備 ○委員会や分掌等の再編成や廃止を含めた学校組織や学校業務の整理統合 ○教職員の勤務状況の把握と

適正化 ○1号館大規模改修に向けた基本設計の検討

- ① 無線ネットワークの拡大と、各教室に設置している液晶プロジェクタへの無線接続の環境整備を年度末にかけて計画的に進めた。
- ② IPアドレス、Macアドレス、PCに関わる管理台帳記載事項の確認と更新を進め、作業の効率化を図った。

2 学校関係者評価委員名

坂入 信也（岡山大学全学教育・学生支援機構 教授）
植田 朋哉（岡山市南部適応指導教室 室長）
徳岡 卓也（株式会社ベネッセコーポレーション中四国支社長）
前嶋 徳子（PTA 副会長）
菊地 潤（PTA 副会長）

3 学校関係者評価

○中高一貫校としての在り方について

- ・中高一貫校の最大の意義は、中高が同じメソッドで教育を行うというところにあると思う。課題研究でも、同じ手法で子どもたちを育てているという中高の共通理解が素晴らしい。
- ・中高一貫校であることが操山高校の強みであるが、実際は中高合同で実施する活動や授業が少ない。中高合同で活動している部活動も少なく、その良さが活かせていないのではないかと。数が少なくてもよいので、中高一緒にできる授業や課外活動を実施してほしい。
- ・高校から入学してくる生徒にとって操山高校の魅力とは何かを明確にし、高校のよさをしっかりアピールしていく必要がある。

○コロナ禍での学校生活について

- ・コロナ禍で普通の教育効果を上げるのが難しい状況にあるが、その中で学校として成果を上げていることは素晴らしい。コロナへの対策として様々な工夫、対応をしていると思うが、コロナによって変わったことでよかった事例もあるはずだ。次年度に向けて、今後残すべきものを明確にしておくとうい。
- ・評価アンケートで保護者の評価が全体的に低かった。昨年に引き続き、学校行事に保護者が参加できなかったことが原因として考えられるが、今年度はコロナ2年目となり、様々な行事の中止・縮小について、保護者は「なんとか行事が行えるのではないかと考えたのではないかと。また他校と比較して「他校は実施できるのにどうして操山高校はできないのか」などと思うこともあった。学校が様々な工夫をしていることは理解しているが、その方針やプランをしっかりと生徒・保護者に伝えていく必要があるだろう。
- ・コロナ禍で講演会などがオンラインであったことは残念であったが、魅力ある講師の講演を直接聞くという体験は貴重であり、コロナが収まったときには従来通りの講演会が実施されることを期待する。

○生徒支援について

- ・学校に行けなくなった生徒は、自分で動くエネルギーが切れている状態であり、それを自分で生み出すことができるよう支援をしていく必要があると、そのようなシステムを構築してほしい。

○WWLについて

- ・社会で生きていく上で必要な力を生徒に身につけさせるために、先生は苦勞しているだろう。また生徒も学校生活において、タフな要求がされていると思う。生徒はハードな学校生活を送る中で、少しずつその活動の意義を理解していこう。
- ・WWLでさまざまな魅力的な活動をしているが、国際塾やオーストラリア研修に関わっていない生徒にとっても関係がある活動であってほしい。すべての生徒がグローバルの視点を持ち、関わることのできるプログラムを作してほしい。
- ・未来航路の取り組みにおいて、新しくグループが生まれ、中学校で研究したテーマを6年間続けることが難しい場合がある。未来航路は高校の大きな魅力であるため、実施方法や内容についての見直しが必要ではないか。

○ICT教育について

- ・今 Chromebook は岡山市内の小中学校でも導入され、その使用が重要視されている。操山高校は他校に先駆けて Chromebook の導入を行っており、成果を上げているのは素晴らしい。特に ICT が入りにくいと考える国語科で成果を上げているということは注目に値する。
- ・Chromebook によって学校に来ることのできない生徒と学校をつなぐことができるため、その活用が期待される。

○進路指導について

- ・他の学校に比べて、操山高校では大学入試改革を先んじて考え、それに対応する体制が組まれている。
- ・国公立大学の推薦入試における募集人数も増加し、推薦入試を希望する生徒が今後も増えていくであろう。それに対応するために、1年生のときから生徒の志望に合った進路指導体制を確立する必要がある。
- ・コロナ禍のために中止になることもあるため、オープンキャンパスへの参加を1年生の時から勧めてほしい。2年生で行くつもりであった生徒が行けなかったと聞いた。
- ・高い志望をもった生徒が各学年におり、学年が上がっても彼らがあきらめることなく志望を続けることができるような学習支援をしてほしい。また高い志望をもつ生徒同士が刺激し合い、切磋琢磨できるようなクラス編成を考えてほしい。

○その他

- ・子どもの人数が減っていることで、学校の魅力を改めて考える必要がある。
- ・オープンスクールに来て学校の雰囲気や生徒の様子を感じることで、学校への志望が高まると思う。コロナ禍で難しい面もあるが、できるだけそのような機会を設けた方がよい。

4 来年度の重点取組

- (1) ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業におけるカリキュラム開発の推進
 - ・未来の岡山と世界の Well-being の実現に貢献するグローバル・リーダー育成に向けたプログラム開発、指導方法の深化・充実、コンソーシアムの構築を図る。
- (2) 進路実現
 - ・高い志をもつ生徒を育成し、難関大学や難関学部、地元岡山大学等への進路実現を目指す。
 - ・大学入試制度改革に対応する指導方法の深化・充実を図る。
- (3) 生徒に対する総合的な支援の推進
 - ・校内支援体制の整備を行い、支援体制の更なる充実を図る。

・積極的な生徒指導を展開する。

(4) 開かれた学校づくりの推進

・ホームページや Facebook を充実させ、効率的・効果的な情報発信を行う。

・関係者、地域、関係機関等との連携を推進する。

(5) 組織の活性化・業務の効率化の推進，教職員の健康の維持

・教職員の負担の均一化をはかるとともに、負担を軽減するためにハード面とソフト面の両方向で業務の精選，改善を行う。

・Chromebook の活用を推進し，業務の効率化を進める。